



歯科診療室だより

公立みつぎ総合病院

25号

令和3年6月8日

中国地方国保診療施設歯科保健研修会

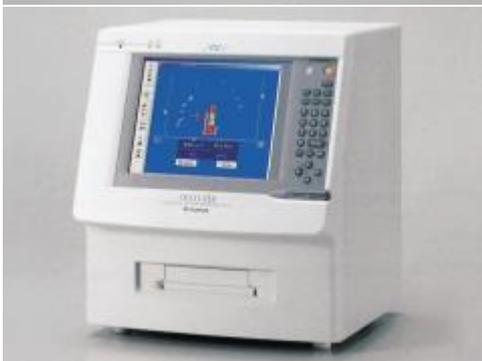
4月23日標記の研修会がありました。本来は、鳥取県主催で行う予定でしたがコロナ禍で鳥取県に行くことがかなわず、広島県主催によりWebでの開催となりました。それでも、中国地方の歯科関係者45名が参加されました。

研修会では、こちらの声が全員に聞こえているかわからなかったり、マイクが不具合を起こしたりと写真では写ってないですが実はバタバタしていました。しかし、Webで4グループに分かれてのグループワークや全体での意見交換は、スムーズに行うことができました。今後、コロナ禍での研修会の方法の一石を投じるような研修会となりました。ところで、研修内容とは、埼玉県秩父の奥（内田先生に届いた荷物の宛名）小鹿野中央病院長の内田望先生に「人生最期の時を迎えるときどうやって逝きたい？～人生の最期によかったといえる生き方～」と題して人生会議の時期や方法、病院でおこなった入棺体験（棺桶に入ってどう思うのか）など面白おかしく講演をして頂き、有意義な研修会となりました。



□口腔機能低下症～その7～

「よく噛んで食べなさい」と言われたり、言ったりしたことはありませんか？よく噛んでどれ位の力があればよく噛んでいるという事になるのでしょうか？



咬合力低下の検査では、左の写真（上）のようなデンタルプレスケールという（1）シートを噛んでもらいます。そうすると、（2）シートに赤く噛んだ跡が印となって現れます。それを左の写真（下）の（3）計測機器に挿入すると噛んだ時の面積や噛んだ時の力が表示されます。噛む力が十分な人は、200N（ニュートン）以上になります。

もう一つは、残っている歯の本数です。これは、根っ子だけの歯やかなり動いている歯を除き20本未満だと口腔機能の低下が疑われます。

“くち”の機能について心配な人は、**歯科スタッフ**までお尋ねください！

文責 診療部長 占部秀徳